



南さつま市立大浦小学校 学校だより

令和5年 8月号

おおうらの子

本校のホームページにつきましては、
近々新しいものに変更になります。9月
以降になる予定です。

校訓 **かしこく やさしく たくましい 大浦の子** 創立 145 周年（明治 11 年創立）

心頭滅却すれば火もまた涼し？

校長 上原 一 宏

今年の夏は暑いですね。エルニーニョ現象の仕業だと気象庁が発表しているようですが、エルニーニョ現象とは一体何なのでしょう。

エルニーニョ現象は、赤道に近い東太平洋の海面水温が平年よりも高くなる現象で、世界各地に異常気象をもたらす“元凶”として知られています。今回のエルニーニョ現象では、早くも異常事態が各地で報告されており、6月15日メキシコでは海沿いで野鳥の大量死が確認されました。地元当局は、エルニーニョ現象による高い海水温が大量死の原因と指摘しています。世界各地で異常気象をもたらすエルニーニョ現象は、世界史にも深く関わってきました。インカ帝国滅亡やフランス革命の背景にも、エルニーニョ現象が影響していた可能性が指摘されています。経済損失の大きさも無視できません。1997年から1998年にかけて発生したエルニーニョ現象では、世界全体で累計5.7兆ドル（約741兆円）の経済損失が発生しました。主な原因は、洪水や干ばつなどの異常気象による被害です。また今年のエルニーニョ現象は、従来よりも規模が大きい「スーパーエルニーニョ」となる可能性も指摘されています。現在の予想どおり、スーパーエルニーニョが今年秋にかけて続けば、世界の気温は過去最高を更新するとの見方もあります。事実、7月の平均気温は、日本でも過去最高を更新しています。

さて、標題についてどんな意味かということ「心を無にして雑念をなくせば、どんな苦痛も苦痛と感ぜない」という意味のことわざです。心頭滅却（しんとうめつきやく）の語源は杜荀鶴（とじゅんかく）という9世紀末ごろの詩人が残した漢詩で、大まかな内容は「僧侶は夏の座禅でも僧衣をきちんと着ている。心を無にすれば火も涼しく感じられる。」というものです。また、信頼性が低いという説もありますが、戦国時代の快川紹喜（かいせんじょうき）の辞世の句（この世を去る際に残す言葉）としても有名です。快川は織田信長の敵対者を匿い引き渡し要求を断ったため、寺を攻められて焼死したと言われています。しかし、「心を無にして雑念をなくせば、どんな苦痛も苦痛と感ぜない」というのは、修業をして達観したレベルに進めた人にしか有り得ないのかもしれませんが。その例として、護摩行（ごまぎょう）があります。これは、炎の前でお経を唱える密教の修業で、現世での祈願成就を目指して、煩惱を炎と一緒に焼き尽くすという意味があります。護摩行はとても危険な行で、熱風で火傷をすることもあるそうです。



ところで最近、高齢者が「エアコンの使用を我慢して扇風機だけで過ごしていたら、熱中症で死亡した」という痛ましいニュースが流れてきました。また、私の父や母の学生時代は、「裸足か裸足に近い状況で、霜柱が立っている状況でも普通に全校朝会をやっていたよ。」と聞きました。戦争を体験し、厳しい環境の中を我慢して生き抜いてきた人たちと、戦後に育った人たちを比べることなど何の意味もないことだと思います。我慢が美德なのはわかりますが、無理をすると死に至ります。現在は、気候の状況が、以前とは比べものにならないほど厳しい状況にあるので、我慢をせず使えるものは使っていきましょう。その上で心頭滅却すれば、よりよい結果が得られるのではないかと考えます。